

## 調査研究活動実績

会派名 「自由の風」

令和5年度の政務調査活動の主な活動実績はつぎの通りです。

安芸市と芸西村は、強力な競争力を持つ1次産業がゆえに、加工食品化や6次産業化が遅れ気味である。東部自動車道の高知・安芸間があと5－6年で完成が期待される中、今からビジョンを策定しなければならない。しかし、地元は具体性ある開通後のビジョンがまだない。先進地を視察したから強力なビジョンが計画できるものでもないが、令和5年度の調査では時代の先端に行く対象から、明らかな失敗例まで調査できた。

### ■強いて言えば成功例

- 徳島県や香川県の漁民が養殖の生産物で食堂やレストランを開き、同量出荷額の3－5倍近い売り上げになっている。
- 一世を風靡してブームから20年近く経った鳥取県境港市の「ゲゲゲの商店街」は、全種店街が団結によって好成績をなんとか維持している。

### ■強いて言えば失敗例

- 淡路島の国立植物園「夢栈敷」は巨大な投資の後のメンテナンスと経営改革が遅れており親方日の丸と判断したが、行政がい

くら投資しても経営者のセンスが肝心の典型例。ただ、一回の短時間調査では真実はわからない。一方で、鳥取県の「花回廊」パークは中程度、一般受けを目指してそれなりに成功か。一度の調査では真実はわからない。いずれ牧野植物園はバージョンアップが求められるが真剣な検討がされるべきである。

□東部自動車道の安芸西インターまでの完成が5, 6年後と期待される中で小さいけれど緊急に求められるのが、受け入れるまちづくりである。そのひとつの「仮称・あき道の駅」のビジョンの検討が進んでない。徹底的に中四国の「道の駅」をあたって成功例と失敗例と一時のブームで終わった例などを調べ上げることにした。5年度の調査で多くの失敗例、そのほとんどが「良心市のレジ付き大型店舗」から抜け出せない、今さえよければいいという田舎の発想だった。

□既存施設の再利用はコストさえ合えば取り上げるべきで、一例をあげると全国初だった芸西村の「海水プール」の再利用で、調査範囲を広げたい。

#### ■その他の実績

県内各地の県施設や産業実態、また過疎対策や県道や市町村道の調査、さらには県民や市町村民の多数の要望を現地調査した。